

キンダーブック3 10月号

表紙の
絵から

旬の野菜、かぼちゃをキャンプのようすに見立てました。さまざまな種類のかぼちゃをじっくり見て、「どのかぼちゃを食べたことがある?」「かぼちゃのテント、楽しそうだね!」と話を広げてみましょう。切り方によって見た目が変わることに着目させ、観察を促してもよいですね。



りんごのうかさん



ねらい りんご農家さんの仕事を知り、りんごを育てるためにどんな工夫をしているか話し合しましょう。

つかい方のポイント りんごを収穫するために、1年かけて育てていることを伝えます。おいしいりんごを作るために、季節ごとに木の手入れや実の世話などたいせつな作業をしていることに着目できるとよいですね。



からだを うごかそう!

ねらい からだのしくみについて知り、興味関心を高めましょう。

準備体操をしてから「どうしていろいろな動きができるのかな?」と問いかけてみましょう。子どもたちのようすを見ながら対話とおして意見を引き出してみてください。その後、骨がからだを支え、骨が動くとからだも動くことを説明します。



筋肉の名称と役割について紹介します。誌面をつかいながら、筋肉の収縮により骨が動くことで、からだ動くというしくみをていねいに伝えます。また、筋肉のはたらきによってからだ温まることなども説明しましょう。

最後は骨と筋肉をつかって速く走るこつを紹介します。誌面で紹介している腕・足の動きや姿勢を試してから、広い場所で実際に走ってからの動きを体感しましょう。骨や筋肉を強くするためには、生活習慣もたいせつだということに気づけるとよいですね。



どうやって とる?



ねらい 柿の実をどうやって取るか考えて、思考力を育みましょう。

つかい方のポイント 「さるかに合戦」のかにが柿の実を取る方法を考えます。まずはじっくりと誌面を観察しましょう。道具を工夫してつかったり、動物たちに助けてもらったりするなど、友だちとお互いのアイデアを聞き合う機会を設けると、発想が広がります。

「キンダーブック3」を 保育にご活用ください!

絵本をつかった 指導計画の文例

◆コーナー



「からだを
うごかそう!」



「りんごのうか
さん」

◆子どもが経験すること

- 骨と筋肉の役割について知る。
- からだ動くしくみについて知る。
- からだを動かすことへの興味関心を高める。
- りんごは収穫までに約1年をかけて育てられていることを知る。
- 食べ物をたいせつにし、育ててくれた人への感謝の気持ちをもつ。

◆保育者の配慮

- 誌面や絵本、図鑑などを用意し、子どもたちが骨と筋肉の役割やしくみを理解できるよう、環境をととのえる。
- 腕や足を動かして、その部位の筋肉にふれ、筋肉の収縮する動きなどを実際に体感できるようにする。
- 誌面の速く走るこつを実際に試せるような広い場所を用意する。さまざまな腕や足の動かし方を試す機会も設ける。
- りんご農家さんの仕事を知り、りんごがどのように育つのかを考えられるようにする。
- りんごの種類や仕事でつかう道具にも興味をもてるよう紹介する。
- 農家さんの工夫や努力に気づけるように話を進め、食べ物をたいせつにしたり、感謝したりする気持ちにつなげる。

付録に
「しぜんずかん」
(あき・ふゆ)
がつきます!



◆5領域

健康
言葉
環境

健康

言葉

環境

健康

言葉

環境

健康

言葉

環境

健康

言葉

環境

健康

言葉

環境

◆10の姿

- 健康な心と体
- 自立心
- 思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 思考力の芽生え
- 社会生活との関わり